

# これも大空を飛ぶための勉強です

毎朝出勤途中に、道路わきの歩道を一生懸命自転車を漕ぐ一人の男性を私は車で追い抜いてきます。暑い日も寒い日も、ママチャリに乗り、駅の方向を目指して必死に自転車を走らせるその男性は、二十八年前に私の学級にいたK・T君です。

中学時代の彼は、柔道部に所属し、ユーモアと誠実さを兼ね備えた、「いいヤツ」でした。一心に自転車を漕ぐその横顔は、多少「オジサン」臭さを漂わせていますが、二十八年前の彼そのままです。

彼の家はその道路沿いにありますので、すれ違う前に私の視界に必ず入ります。母屋の隣に新築の家が建てられ、「八王子」ナンバーのワゴン車が止まっています。恐らく、関東で仕事に就き家族をもった彼は、故郷の瑞浪に一家で帰ってきたのでしよう。そして、毎日自転車ですらまで通勤し、満員電車で揺られて家族のためにがんばって働いているのでしよう。

私の車の前後に車がない時に、車の窓を開けて彼に呼びかけようとしたが、私はそれができずに今に至っています。これまでに、声をかけるチャンスは何度もありました。しかし、その度に、「声はかけたい。でも、できない」ということを繰り返しています。いつもの時間に、いつもの道を通るのは、明日の一日だけです。きつと、彼の横顔を見届けるだけして、彼を追い抜いてくることでしよう。

私が彼に声をかけられないのは、自転車を漕ぐ彼が、家族のために必死になって働く親の顔、夫の顔になっているからです。私が目にするのは自転車を漕ぐ彼の姿ですが、その姿からも家族のために必死になっているオーラが出ています。そんながんばっている彼に軽々しく声をかけることはできない。元担任として、教え子と再会できることはうれしいが、だからこそ、陰で応援するべきだと思っからです。

生徒の皆さんは、着実に大人へ向かって成長しています。体も心も大きくなりつつあります。そういう時期には、気が大きくなり、自分一人の力で何でもできると誤解しがちです。大空を自由に飛び回ることができるよう、羽ばたきの練習、エサをとる練習、身を守る練習をしている皆さんを、陰で支えている親という存在があることを忘れてはいけません。

皆さんの親の世代は働き盛りです。家庭では、仕事のストレスと闘って口うるさくなったり、余計な心配をしたりすることがあるかもしれません。はたまた、心底疲れ切って家ではゆっくりしたいのに、疲れた体にむち打ってせつせと家事をしているのかもしれない。そういう親の立場をわかってもらうとする人間になってほしい、と私は思います。

親は自分から「がんばっている」とは言いません。だから、それを察することを中学生の皆さんにしてほしい。実は、これも大空を飛ぶための大切な勉強なのですよ。

(三月二十四日記)